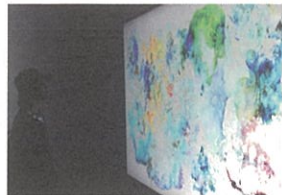


Lost and Found展 This is My Letter to the World

ロスト アンド ファウンド展
ディス イズ マイ レター トゥ ザ ワールド

【出展作家】※順不同



大沼彩子 Ayako Onuma

1984年、宮城県生まれ。2017年現在、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術表現専攻在学中。インクの染みを使ったアニメーション作品を制作する。イメージは生きるためのものか(2016年)

吉國元 Moto Yoshikuni

1986年、ジンバブエ生まれ。2015年、多摩美術大学造形表現学部造形学科卒業。異なる文化間の齟齬、分裂、異和の中で制作し、他者/自己のポートレートを描いている。後姿と壁(2017年)



池田萌子 Moeko Ikeda

1988年、山形県生まれ。2014年、多摩美術大学美術学部工芸学科卒業。身の回りにある日用品をモチーフとして、幻想と現実の境目をテーマに制作する。



情動の演出(2012年)

小野初美 Hatsumi Ono

1981年、神奈川県生まれ。2014年、多摩美術大学造形表現学部造形学科卒業。在学時より、クジラの絵を描き続けている。



the END(2013年)



後藤響子 Kyoko Goto

1992年、愛知県生まれ。2016年、多摩美術大学美術学部絵画学科日本画専攻卒業。規則性を持ちながら刻々と変化していく現象と対峙し、それを再現する手法をとる。

What I found there.(2016年)

佐藤優里咲 Yurie Sato

1992年、東京生まれ。立教女学院短期大学、明治学院大学卒業。『Lost&Found Vol.3』に参加、「天使の声による自己治療」を執筆。



はじめは死体から(2017年)



安達茉莉子 Mariko Adachi

2008年東京外国語大学英語専攻卒業。人間が人間であるための『言葉』を根幹に、言葉とイラストで広く『物語』を描く。2017年に3作目のイラスト詩集『The Feeling When...日常の中に生まれてくるある瞬間について』発行。

笹目舞 Mai Sasame

2017年、多摩美術大学大学院博士前期課程修了。自己と他者の存在を反芻するプロセスを描く。2017年、個展「異種混濁の世界 World of the hybridity」(京橋)。

「というコト8」(2017年)



言葉とアートの消失点で 残されたものを聴く作家たち

この展示の背景には、出展作家たちが参加し、共同制作した冊子『Lost & Found』(vol.1~4)があります。この冊子は、「同時代」をテーマに紡いだ言葉を持ち寄り、朗読し合うという作業を、約半年間にわたって繰り返すなかでうまれました。それは単に、文章の校正作業というよりも、各人が自分なりの「同時代」への応答を対話のなかで確認し合うことで、言葉と心身の化学反応が起こり、記憶や認識や感性が生成変化していく場でした。非言語的表現に長けた者だからこそ、かえって言葉の磁場をすどく感じとり、既成の概念や言葉の文法から抜け落ちていくことがらに耳を澄まそうとするのだと思います。それでもあえて言葉にしなければふきこぼれてしまうことを描ききろうとするなか、作家たちの世界への手紙を見いだすことができます。展示のタイトルは、だから、エミリー・ディキンソンの詩句から取りました。“This is my letter to the world, / That never wrote to me, --” 作家たちからの世界への応答——言葉と造形作品が交差する空間で、その声はどのように届くのでしょうか。(キュレーター・杉原未希子)

『Lost and Found』とは

文化人類学者の中村寛を発起人として、当時多摩美術大学夜間学部在籍していた平山みな美、吉國元、大沼彩子が執筆し、2013年に人間学工房より出版された。その後も、さまざまなバックグラウンドを持つ執筆者が参加した。2017年3月、vol.4刊行。



【イベント】※内容は変更になる場合があります。また、イベントにより参加作家は異なります。

- 9月17日[日] 17:00~ 〈オープニングパーティー〉アーティストトーク
*てろてろのおもてなし料理付き
- 9月30日[土] 16:00~ 〈ライブパフォーマンス〉ゲスト: 大和田慧(シンガー-ソングライター)
×出展作家
- 10月14日[土] 14:00~ 〈トークイベント〉ゲスト: 畑中章宏(民俗学者)
×中村寛(文化人類学者) + 出展作家
- 10月20日[金] 18:30~ 〈トークイベント〉ゲスト: 港千尋(写真家) × 平出隆(詩人)
×中村寛(文化人類学者) + 出展作家



「アキバタマビ21」は多摩美術大学が運営する、若い芸術家たちのための作品発表の場である。ここは若い芸術家たちが、互いに切磋琢磨しながら協働し共生することを体験する場であり、他者と触れ合うことで自我の殻から脱皮し、既存のシステムや権威に依存することなく自らをプロデュースし自立していくための、鍛錬の場でもある——そうありたいという希望を託して若い芸術家たちにゆだねる、あり得るかもしれない「可能性」の場であり、その可能性を目撃していただく場所である。



アキバタマビ21 ☎03-5812-4558
東京都千代田区外神田6丁目11-14
3331 Arts Chiyoda



平成29年10月3日

PTA会員各位

多摩川の学び舎

世田谷区立瀬田小学校校長 坂本 尚子
P T A 会 長 大塚 邦雄
家庭教育学級委員長 木村 真理

第2回家庭教育学級

～Let's Enjoy!～

劇団シラカン「ひびを募って」のご報告

平成29年9月6日瀬田小学校総合学習室にて、第2回家庭教育学級として劇団シラカン「ひびを募って」を開催いたしました。1年生から6年生までの保護者50名の方々にご出席いただきました。多摩美術大学演劇舞踏デザイン学科（上野毛キャンパス）の3年生から社会人1年目により構成された劇団員の方々には、教育という大きなテーマから創造した内容を演劇で表現していただきました。観客席は、保護者の方々に間近でお座りいただき、時には笑いを誘いながらの臨場感あふれる舞台となりました。

終演後、教育委員会の藤本仁様、上村副校長先生からもご挨拶がありました。東京都23区の中でも特に芸術施設に恵まれた世田谷区的环境に触れると同時に、幼少期の小さな疑問や好奇心から様々な経験をさせてあげることの大切さをお話いただきました。

最後は劇団シラカン代表であり、多摩美術大学現役3年生の西氏から、演出において注意したことを聞かせていただきました。



終演後、
皆さまよりアンケートをいただきました。

- 大変良かった・・・11名
- 良かった・・・22名
- 普通・・・8名
- あまり良くなかった・・・2名
- 悪かった・・・1名
- 無記入・・・1名

講演会を終えて

アンケートのコメントを見ても、皆さまの感想は本当に様々でした。このような想像力をかきたてるような演劇を身近で観る機会をいただけて大変光栄でした。演劇は、瀬田小の家庭教育学級委員会では初めての試みでした。演劇という表現方法を通して、お子さまとの接し方を考えるきっかけになり、より美術を身近に感じていただけたらと思います。劇団シラカンの方々、並びにお世話になりました上村副校長先生、教育委員会の藤本仁様、足を運んでいただいたPTA会員のみなさま、本当にありがとうございました。